

日展（書）に8年連続入選して ～生きがい幸せのカギ～

29期 竹本治男（大鶴）

1 1月1日（木）～3日（土）東京六本木の国立新美術館でのイベントや祝賀懇親会に参加してきました。日展は明治40年第1回文展創立から111年の歴史を持ち、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門が渾身の新作を発表する世界でも類をみない総合美術展です。

1日（木）は午後2時より国立新美術館での内覧会（入選者や日展関係者・報道関係の方のみ）とその後、各部門にわかれホテルでの祝賀懇親会。

2日（金）は午前9時30分より開会式があり、宮田文化庁長官・奥田小由女日展理事長・青木国立新美術館館長のテープカット。大勢の入場者で盛会に開催しました。

3階は書の作品、2階は洋画・彫刻そして1階は日本画・工芸美術をゆっくり鑑賞することができました。

今回の私の作品は漢詩の文字に苦労しました。2行目の山場に画数の少ない「人」・「一」が続いたこと。流動美豊かに運筆するように心がけましたが、文字の形にこだわりすぎてしまい迫力感に欠けてしまったと反省しています。いろいろな漢詩を縦に書いたり横に書いたりして800～900枚ぐらい書きました。最終的にはこの詩の意味が好きでこの題材にしました。

特別展の東山魁夷展や上野での斉白石特別展（中国近代絵画の巨匠）も欲張って鑑賞し、より感動や感激を沢山いただきました。次への創作活動のエネルギーを得たように感じます。

帰りの新幹線の中で、いろいろと思いだしました。中学を卒業し、故郷（但馬）を離れ住友電工（伊丹）の養成工として3年間、そして北野高校定時制…十三公園近くの3畳間での生活。そこで自分に誓った書道への道。日展には落選、落選の数十年でしたが学友や恩師、いろいろな人にお世話になったり励ましていただいたり…人の出合いを大切にしながら自分に正直・素直にコツコツ努力してきました。

夢に見た日展に8年連続入選させていただき、本当にうれしくて、嬉しくてたまりません。青春時代を走馬灯のように思い出していました。古稀を過ぎてきますと「生きがい幸せのカギ」とよく耳にします。次への目標に向かってより精進したいものだと思いを新たにしました。今思うと「若い時代、貧しかったおかげ」「この時に目標を決めて将来の姿を見たおかげ」だと痛感しています。

今回の日展は六本木の国立新美術館をスタートに京都・名古屋・富山・大阪・岡山と巡回します。大阪展は 来年6月1日（土）～6月30日（日）天王寺の大阪市立美術館で開催されます。愚作ですが鑑賞していただければ幸いです。

2018（平成30年11月14日）記

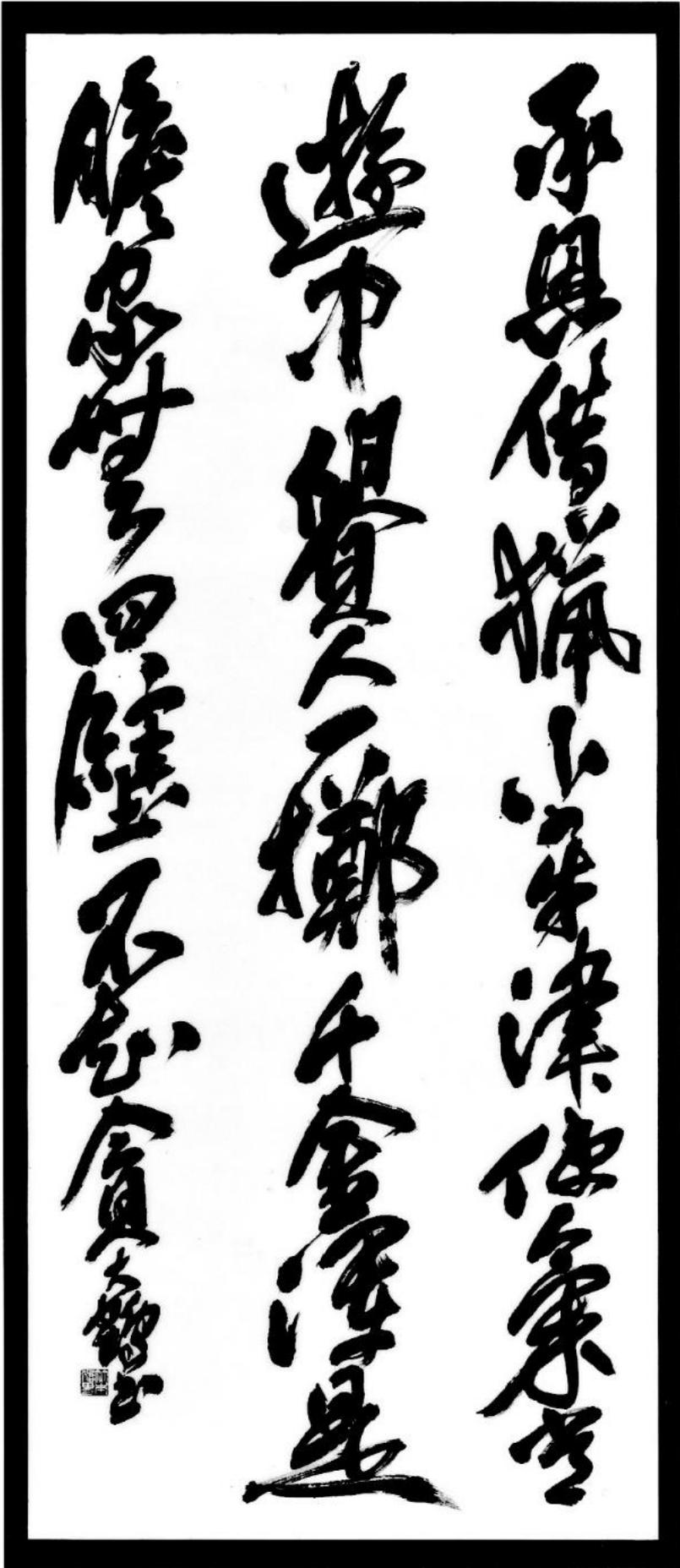


入選作品

改組新第5回日展(2018)

少年行

竹本大鶴



入選作品 漢詩の読みと語意

(漢詩)

少年行

少年行 (唐・呉象之)

承恩借獵小平津

承恩を承けて借獵す 小平津

使氣常遊中貴人

氣を使つて常に遊ぶ 中貴人

一擲千金渾是膽

一擲千金 渾て是れ膽

家無四壁不知貧

家に四壁無きも貧を知らず

(語意)

格別の恩寵によって御獵場の小平津で思う存分狩りをすると思えば、意気の盛んなところを見せて任侠をこととして、いつも宮中の有力な内管とつきあっている。そうかと思えば、一度の豪遊に千金を投げ出して平氣の平座、まさにこの身はすべてこれ膽の(きもがすわっている)男だ。でも自分の家に帰ると、四方の壁さえ満足に残っていないという、赤貧洗うがごときありさまだが、自分は貧乏など全然苦にもならなければ、意識もしていないのだ。



入選作品の前にて 筆者



懇親会場にて



受賞者の方達と



会場となった国立新美術館



宮田文化庁長官の挨拶



奥田小由女日展理事長の挨拶



展示会場（日本画）



展示会場（書）



展示会場（洋画）



展示会場（彫刻）